

II 資源・エネルギーの循環促進

II-1 廃棄物の抑制・リサイクル

II-1-(1) 浄水発生土の有効利用

水道 工水 下水

取組概要		進行管理の指標	令和6(2024)年度の取組結果		
○長沢浄水場及び生田浄水場の浄水処理過程で発生する浄水発生土を、改良土の原材料やセメント原料として、100%有効利用する。		○浄水発生土を100%有効利用	○浄水発生土の排出量 ・長沢浄水場排出量 6610.31 t ・生田浄水場排出量 274.95 t		
			○浄水発生土を100%有効利用		
				評価	水道 3
					工水 3
今後の取組					
○浄水発生土有効利用100%の継続実施に努める。					
改良土プラント					

II - 1 - (2) 下水汚泥の有効利用

水道 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	令和6(2024)年度の取組結果		
○入江崎総合スラッジセンターでは、市内4か所の水処理センターで発生する下水汚泥を集約し焼却処理しており、この汚泥焼却灰を資源として捉え、セメント原料として有効利用する。	○セメント原料として焼却灰を100%有効利用	○焼却灰発生量 4,190t ○焼却灰を98.4%有効利用		
		評価	下水	3
今後の取組		 <p>下水汚泥焼却処理工程から発生する資源・エネルギーの利活用のイメージ</p>		
○セメント原料として焼却灰の100%有効利用の継続実施に努める。				

II - 1 - (3)

建設副産物のリサイクルの推進

水道 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	令和6(2024)年度の取組結果		
○上下水道工事（工業用水道を含む。）に伴い発生する建設副産物は、可能な限り再資源化し、工事資材に積極的に活用する。	○建設副産物を適正に処理し、再資源化に積極的に取り組む。 ○再生資源材料を工事へ積極的に採用する。	○工事で発生した建設副産物（アスファルトコンクリート、土砂、碎石）を再資源化し、再生資源材料を工事へ積極的に採用。		
		評価	水道	3
			工水	3
			下水	3
今後の取組		 <p>建設副産物リサイクル概念図</p> <p>図解説：この概念図は建設副産物のリサイクルプロセスを示す。左側には「建設副産物」の山があり、その上部から「発生」の矢印が下へ向いており、「上下水道工事」のロゴが付いている。中央には「リサイクル施設」の建物があり、その左側に「投入」の矢印が上へ向いており、「建設副産物」の山から矢印で入っている。施設の右側に「再生」の矢印が下へ向いており、「工事資材」の山へ向かっている。右側には「活用」の矢印が上へ向いており、「工事資材」の山から矢印で出ている。</p>		
○再生資源材料の工事への積極的な採用の継続実施 ○建設副産物の再資源化の推進				

II - 2 資源・エネルギーの有効利用

II - 2 - (1) 下水汚泥焼却熱を利用した温水プール

水道 工水 下水

取組概要		進行管理の指標	令和6(2024)年度の取組結果		
○入江崎総合スラッジセンターの汚泥焼却工程から発生する余熱を、隣接する入江崎余熱利用プールや管理棟の空調・給湯設備などの熱源として利用する。		○汚泥焼却工程から発生する余熱の有効利用を実施	○汚泥焼却工程から発生する余熱の有効利用を実施		
			評価	下水	3
今後の取組					
○汚泥焼却工程から発生する余熱の有効利用を進める。					
			入江崎余熱利用プール		

II - 2 - (2) 高度処理水の有効利用		水道	工水	下水
取組概要	進行管理の指標	令和6(2024)年度の取組結果		
○再生紙を製造する過程に水資源を有効利用するため、川崎ゼロ・エミッション工業団地に提供する。また、下水道の整備により河川としての役割を終えた江川をせせらぎ水路として整備しており、高度処理水による水辺環境の回復を図る。	○川崎ゼロ・エミッション工業団地、近隣事業者に高度処理水を提供 ○高度処理水を江川せせらぎ水路へ送水 ○高度処理水を機械冷却水等へ使用	○高度処理水を川崎ゼロ・エミッション工業団地、近隣事業者へ提供 ○高度処理水を江川せせらぎ水路へ送水 ○高度処理水を機械冷却水等へ使用		
		評価	下水	3
今後の取組				
○川崎ゼロ・エミッション工業団地、近隣事業者に高度処理水を提供 ○高度処理水を江川せせらぎ水路に送水 ○高度処理水を機械の冷却水等に利用				
				
			江川せせらぎ水路	